

子どもの発達のための環境とは何か
—保育所における物理的環境の調査—
(中間報告)

お茶の水女子大学大学院 高橋節子

What is a well-prepared physical environment for nursery school?
A survey of nursery schools in Japan
(A forthcoming study)

Ochanomizu University

Graduate school of Humanities and Sciences TAKAHASHI, Setsuko

要約

本研究は、保育所における物理的環境に関する調査を行い、わが国の保育所の物理的環境が子どもの自立的活動や発達を援助する環境となっているかを明らかにすることを目的とする。これまで、保育環境については人的環境を中心に論じられることが多かった。しかし、物理的環境も子どもの活動を援助するものとして考えられるべきであろう。筆者の分析では、モンテッソーリ教育における物理的環境は、子どもの自立的活動を援助するものとして重要であることが明らかになった。そこで、本研究ではこのモンテッソーリ教育における物理的環境を参考に調査項目を作成し、質問紙調査を行う。それによって、わが国の保育所における物理的環境が子どもの自立的活動や発達を援助する環境であるかを検討し、子どもの発達にとって望ましい物理的環境とは何かを考える。

【キー・ワード】物理的環境, モンテッソーリ教育, 保育所, 自立的活動, 発達

Abstract

This study aims to investigate the extent to which physical features of the environment, such as the equipment, furnishings, classrooms and nursery buildings, which demonstrably activate and/or support children's spontaneous activities and their development, are present among Japanese nursery schools. While the quality of the educational environment for pre-schoolers has been mainly discussed in terms of the human environment, my previous analysis of the literature of M. Montessori and of nursery-school buildings and classrooms designed according to her theory surely indicates the importance of the physical environment of the nursery school. Even today, the physical elements of the environment suggested by Montessori must be indispensable

factors in nursery-school education. Accordingly, a questionnaire survey is planned to investigate what aspects of the physical environment suggested by Montessori are generally found among nursery schools in Japan. Both Montessori schools and other schools are asked to participate in this survey, and will be compared. Based on the present findings, I will discuss how the quality of the physical environment affects the education of young children.

【Key words】 physical environment, Montessori education, nursery school, spontaneous activity, child development

問 題

子どもの自立的活動や発達を援助する物理的環境（道具・家具・設備・教室・園舎）とは、どのようなものだろうか。これまで、保育環境は、人的環境を中心に論じられることが多かった。例えば、保育環境を評価するスケールなどを見ても、その傾向が指摘できる（e.g., 安梅, 2004; Harms et al., 1998/2008; 2003/2009）。

しかし、子どもの自立的活動や発達を援助するのは人的環境だけであろうか。例えば、手を洗うとき、子どもは大人の体のサイズに合わせた洗面台ではひとりで手を洗うことができない。しかし、子どもサイズの洗面台であれば、自分ひとりで手を洗うことができるであろう。このように、子どもの自立的活動を援助する物理的環境を考える必要があるのではないだろうか。

少なくともわが国の建築学では環境の安全性の検討（e.g., 仙田, 1998; 2001）や子どもの活動に必要な教室の広さや設備の配置、寸法に関する検討（e.g., 近藤・定行, 2009; 宮本・中尾, 2007）など、建築設計に必要な知見は豊富に蓄積されている。また、子どもの活動に着目した研究としては、子ども同士の交流や遊びに着目して物理的環境のあり方を検討した研究など（e.g., 細谷ほか, 2008; 仙田, 1987; 2001; 山田ほか, 2009）もある。しかし、物理的環境を子どもの自立的活動を援助するものとしてとらえ、そのあり方を体系的に検討した研究はほとんど見られない。

筆者の分析によれば（高橋, 2008; 高橋・元岡, 2009）、アトリエ・ジンガー&ディッカー（Atelier Singer-Dicker）が設計したウィーンのモンテッソーリ教育のための保育園（1930-1932）では、物理的環境が子どもの自立的活動を援助するために不可欠であることが明らかになった。

そこで本研究は、保育所における物理的環境に関する調査を行い、わが国の保育所の物理的環境が子どもの自立的活動や発達を援助する環境となっているかを明らかにすることを目的とする。まず、ウィーンのモンテッソーリ教育のための保育園と、後述のモンテッソーリの自著における物理的環境に関する記述を参考に質問項目を設定し、現在のわが国の保育所に子どもの自立的活動を援助する物理環境の特徴が見られるかを分析する。さらに、モンテッソーリ教育における物理環境よりも、子どもの自立的活動をよりよく援助する物理環境が、わが国の保育所において見られるかをも検討し、子どもの発達にとって望ましい物理環境とは何かを考えたい。

モンテッソーリ教育とウィーンのモンテッソーリ保育園

(1) モンテッソーリ教育と物理的環境

モンテッソーリ教育とは、イタリアの教育者マリア・モンテッソーリ (Maria Montessori, 1870-1952) が始めた教育法である。モンテッソーリは 1907 年、ローマに「子どもの家」を開設した。この「子どもの家」で主として 3～7 歳児を対象に始めた教育法がモンテッソーリ教育であり、その後、モンテッソーリ教育は急速に普及し、現在に至るまで日本を含め世界各地で採用されている。モンテッソーリは後に、モンテッソーリ教育の対象を 0 歳児から高等教育にまで発展させたが、本研究ではモンテッソーリ教育の中でも、特に環境による教育を重視する 3～6 歳児を対象とする幼児教育法を研究の対象とする。

筆者のモンテッソーリの自著によるモンテッソーリの子ども観・発達観に関する分析によれば (高橋, 2009), モンテッソーリは子どもとは生まれながらに発達の計画をもち、環境との交渉によって発達する存在であるとする。さらに、子どもは能動的で自尊心を持ち、自立を望む存在であるとも主張している。そして、子どもが自らのもつ発達の計画にもとづいて能動的に発達していくためには、子どもの自由な活動を保証する適切な環境が必要であると考えている。このようにモンテッソーリ教育では環境を重視するが、中でも人的環境である教師は積極的な指導を控え、その代わりに子どもの自由な活動を援助する適切な物理的環境を用意し、子どもを自律的に活動させることに特徴がある。

このようなモンテッソーリ教育における物理的環境は、「整えられた環境」と呼ばれ、教具、日常生活の練習の道具、家具、設備・教室・園舎から構成される。そして、筆者の分析により (高橋, 2009), 物理的環境は図 1 のように 8 つの性質を持つことが明らかになった。この性質のなかで特に重要とされるのは、子どもサイズであることであり、これは子どもの自律的活動を援助するためには欠かせない条件とされる。また、モンテッソーリが子どものための環境も大人のための環境と同様に美しく魅力的で、本物の質をもつ環境であるべきだと主張した点も注目でき、これは子どもを尊重する考えの表れであると考えられる。

このように、モンテッソーリ教育は子ども中心主義の教育の中でも、最も物理的環境に配慮した幼児教育法の一つであり、モンテッソーリ教育における物理的環境は、子どもの自律的活動と発達を援助するものとして評価できる。

(2) ウィーンのモンテッソーリ保育園における物理的環境

ウィーンのモンテッソーリ保育園 (Städtischer Montessori-Kindergarten im Goethehof, Schüttaustraße) は 1930-1932 年にアトリエ・ジンガー&ディッカー (以下アトリエ S&D と略記) が室内のデザインを行い、家具、設備に至るまで彼らのオリジナルのデザインである。筆者の分析によれば (高橋・元岡, 2009), モンテッソーリの自著における「整えられた環境」に関する具体的な記述のうち、このモンテッソーリ保育園の物理的環境ではそのほとんど (95.8%) が実現されている。

さらに、アトリエ S&D はモンテッソーリが考えていた以上に、モンテッソーリの子ども観・発達観を、よりよく物理的環境として実現していたのではないかと考えられる。例えば、彼らは床材の色彩によって机を並べる位置や特定の活動を行うスペースを示すように計画している。さらに、子ども

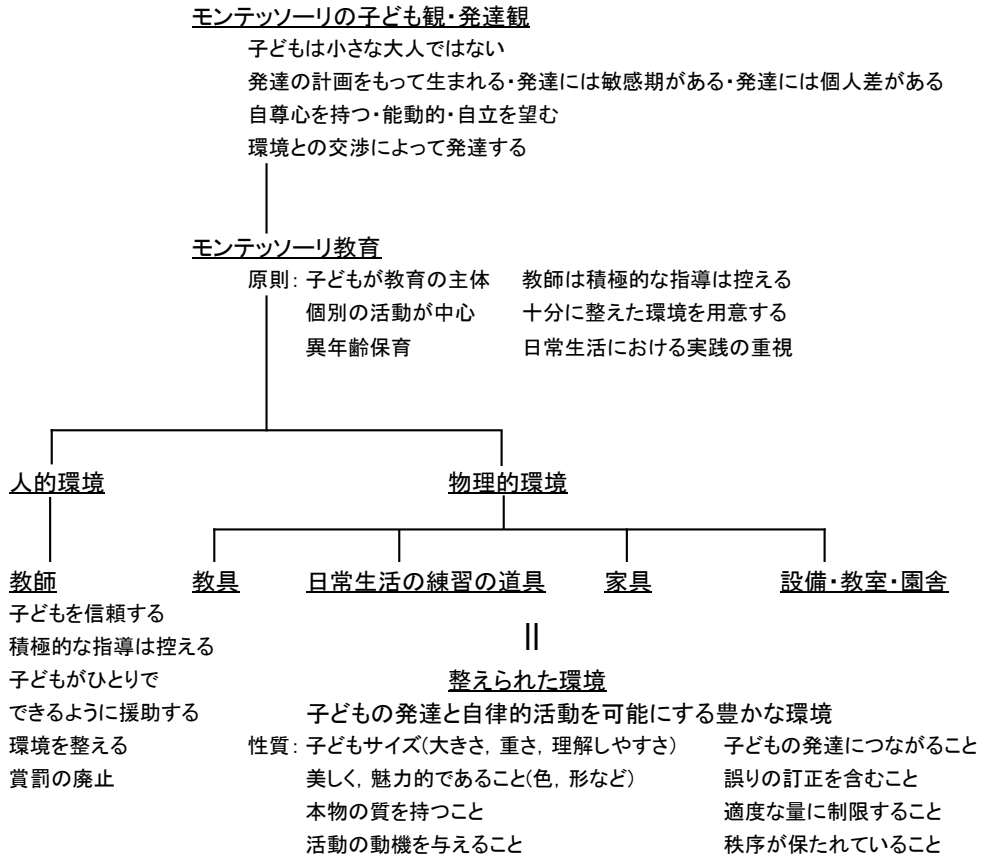


図1 モンテッソーリの教育思想と人的環境・物理的環境

自身が使いやすいようにラックや棚をデザインし、一人ひとりの道具をそれぞれ収納するスペースを与えるなど、物理的環境が子どもの自立的活動を援助していたであろうと考えられる。

そこで、本研究ではモンテッソーリの自著における「整えられた環境」に関する記述と、ウィーンのモンテッソーリ保育園を参考にして、物理的環境に関する調査項目を作成する。

本調査の計画

(1) 調査の目的

①モンテッソーリの自著における記述、およびウィーンのモンテッソーリ保育園に見られた子どもの自立的活動を援助する物理的環境が、現在のわが国のモンテッソーリ教育を実施する保育所にどの程度実現しているかを明らかにする。

②モンテッソーリ教育における物理的環境の特徴が、モンテッソーリ教育を行う保育所だけでなく、現在のわが国のその他の教育を行う保育所にも普及しているかをも分析する。

③モンテッソーリ教育における物理的環境の特徴以外で、現在のわが国の保育所に子どもの自立的活動を援助する物理的環境が存在するののかも併せて検討する。

(2) 調査対象・方法

本研究では、保育時間が長く、より多様な自立的活動が行われていると推測される保育所を調査の対象とする。モンテッソーリ教育を実施している保育所と、その他の保育所を対象に郵送による質問紙調査を行い、特に3～6歳児に対する保育内容と物理的環境について調査を行う。

調査対象としては全国のモンテッソーリ教育を実施している保育所(約200)と、その他の教育を行っている保育所(約500)、合計700カ所に質問紙を郵送し調査を行う。これは、予想回収率を15%と設定し、少なくとも100カ所程度の回答を確保するように計画したものである。また、保育内容や、園舎などの物理的環境には地域差が影響を与えることが予想されるため、なるべくモンテッソーリ教育を実施している保育所と同地域のその他の保育所とを対応させるように調査対象を選定する予定である。

(3) 調査項目

前述のようにモンテッソーリの自著における記述とウィーンのモンテッソーリ保育園を参考に、物理的環境に関する調査項目を作成する。

①教育法・保育内容について

保育所の種別(認可の種類);教育法(どのような教育法に基づいて保育を行っているのか);クラスの編成(同年齢・異年齢);保育形態(一斉保育・個別保育);保育内容(園児たちはどのような活動を行っているか)

②物理的環境について

園舎の構造(木造・RC造などの種別、園舎の階数);園舎の構成(室の構成、園庭の有無、園庭と教室の位置);園舎の色や素材(教室の壁や床の配色、素材、設備の配色など);開口部の高さ(窓、ドアノブの高さ);部屋の装飾(園児の作品以外の鑑賞用の絵画などが設置されているかなど);家具・設備(子どもサイズか);道具(食器や掃除道具など、園児が使用する道具の素材と子どもサイズか、など)

③物理的環境の使用状況について

園児は道具、家具、設備、開口部などを自立的に使用できているか。使用できていないとすれば、どのような問題が見られるか。

なお、質問紙調査の際に、保育所での観察及び面接調査への協力を依頼する予定である。物理的環境に関する調査(実測など)、園児の物理的環境の使用状況の観察、保育士に対する面接調査を行い、物理的環境の状況と園児の使用状況をより詳細に把握したい。それによって、子どもの自立的活動と発達を援助する物理環境のあり方を詳しく検討したいと考えている。

引用文献

安梅勅江(2004). 子育て環境と子育て支援—よい長時間保育のみわけかた. 勁草書房.

- Harms, T., Clifford, R. M., & Cryer, D., 埋橋玲子訳 (1998/2008). *保育環境評価スケール①〈幼児版〉* [改訳版]. 法律文化社.
- Harms, T., Cryer, D., & Clifford, R. M., 埋橋玲子訳 (2003/2009). *保育環境評価スケール②〈乳児版〉* [改訳版]. 法律文化社.
- 細谷俊子・積田洋・青木健三 (2008). 異年齢保育における保育室の空間構成と室内遊びでの異年齢交流の実態の研究. *日本建築学会計画系論文集*, 73 (634), 2565-2572.
- 近藤ふみ・定行まり子 (2009). 保育所における幼児の食寝空間からみた面積基準のあり方について. *日本建築学会計画系論文集*, 74 (645), 2371-2377.
- 宮本文人・中尾友子 (2007). 幼稚園における園児の生活習慣行動と生活支援空間. *日本建築学会計画系論文集*, 611, 45-51.
- 仙田満 (1987). *あそび環境のデザイン*. 鹿島出版会.
- 仙田満 (1998). *環境デザインの方法*. 彰国社.
- 仙田満 (2001). *園舎・園庭を考える 幼児のための環境デザイン*. 世界文化社.
- 高橋節子 (2008). 子どものための建築空間—モンテッソーリ教育のための園舎の場合. *日本建築学会大会学術講演梗概集 F2 (建築歴史・意匠)*, 611-612.
- 高橋節子 (2009). 子どものための環境—モンテッソーリの子ども観と「整えられた環境」の場合. *こども環境学研究*, 5 (1), 60.
- 高橋節子・元岡展久 (2009). 子どものための建築空間—ウィーンのモンテッソーリ保育園の場合. *日本建築学会大会学術講演梗概集 F2 (建築歴史・意匠)*, 121-122.
- 山田恵美・佐藤将之・山田あすか (2009). 自由遊びにおける園児の活動規模と遊びの種類およびコーナーの型に関する研究. *日本建築学会計画系論文集*, 74 (637), 549-557.

謝 辞

本研究については、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の元岡展久准教授にご指導いただきました。ここに記して感謝いたします。